

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302511		
法人名	株会社エコ		
事業所名	グループホーム陽だまり 1階		
所在地	郡山市富田町菱内32番地		
自己評価作成日	平成21年8月21日	評価結果市町村受理日	平成21年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に親水公園があり、遊歩道には桜並木もあるため、四季折々の季節感を感じることができ、緑も多く、街道沿いでアクセスしやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園に囲まれ近くに親水公園もあり自然環境に恵まれた場所に開設された事業所であるが、近年開発が進んでおり新興住宅地となっている。
運営推進会議の委員の発言を事業所の運営やケアに反映させており、リスク管理については些細な出来事も直に取り上げ事故防止に努めている。利用者のケアについては利用者が自主的に行動できるよう見守りを主体とした利用者本位のケアに努めており、利用者も落ち着いて穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの視点で、職員各自の意見を出し合い検討して新たな理念を作り上げている。	法人の理念に沿った事業所独自の理念を昨年度末に従業者と話し合い今年度変更している。職員も良く理念を理解し、にこやかな態度で利用者に接していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーの協力もあり、地域の活動や行事に参加する機会があるため、地域住民の方々との交流を深めることが出来る。	地域行事(秋祭り・敬老会・文化祭・清掃活動)に積極的に参加している。陽だまり新聞を年3回区長を通じ配布し、事業所の存在のピーアールに努めている。	地域行事への参加等地域との交流に努めていることは認められるが、事業所として蓄積した専門的知識を地域に還元する事により地域との信頼関係が増し、災害等の発生時に協力も受けやすくなるのでは。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用者の状況、ホームの活動を報告し、メンバーの方々の助言を聴きながらサービスの質の向上に努めている	定例化して開催しており、委員からの提言を実現するよう努力している。事業所内の状況報告をし、区長を通じ事業所への協力も要請している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保受給者の入居者もあり、地域担当者と連携をとり協働関係作りに努めている。また、市の介護相談員を受け入れ、事業所の考え方や、現状の共有を図っている。	市の地域包括介護支援センター職員が運営委員になっている。生保担当のケースワーカーが年1回調査のための訪問があり、介護相談員が訪問してくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づいたケアを行い、職員間で実践している。また、申し送りに際してケアについて職員間で確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を以で行ったことがあるが、現在はない。外出に際しての言葉掛けも拘束にならないよう従業者も気を使っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり職員全員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者もいるので、市の担当職員との話し合いを持ち、支援を続けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等は十分な説明を行い理解、納得していただくように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とのコミュニケーションを図りながら不満や苦情を傾聴、受容している。	運営推進会議で家族委員も話せる機会をもうけている。介護相談員が利用者と面接しているため、今後は介護相談員との話し合いを持ち間接的ではあるが、利用者の意見を取り入れたいとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に代表者や管理者が参加し運営に関する周知を行っている。	毎月事業所でのスタッフ会議で出された意見を所長会議、ブロック会議で報告し、要望を法人全体として反映させる体制ができている。資格取得者は昇給する制度を創設した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況等の把握に努め、やりがいのもてる職場を提供できるように、職場環境や整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受け入れ体制が整ってきており、職場での研修報告により、情報を共有することや実践することで、個人のレベルアップに繋いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会については希望者や必要な研修への参加を勧めている。また、その時に情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の希望や不満に耳を傾けながら、その利用者にとって満足が得られるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事や、希望を聴きながら、要望に沿えるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の不安や心配事を聴きながら、要望に沿えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の培ったきた知恵や知識をその時々傾聴しながら、理解し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の出来る事を一緒に行い、家族に伝えながら、本人の機能を活かして、生きがいを見出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から利用していた病院や美容院に通い、ひとり一人の生活習慣や馴染みの場所人との関係、利用者個々の思いを尊重している。	比較的に地区内・隣接よりの利用者が多いこともあり、かかりつけ医・理美容院を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で楽しく過ごせる時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面作りを行ったり、人間関係が円滑にいくように職員が適宜仲介し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、可能な限り利用者や家族と関係を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で何をしたいか、どうしたいのか、を言葉、表情、行動から、汲み取り利用者のニーズや状況を把握する様に努めている。	利用者の希望・家族の要望を把握し、介護目標を設定し、モニタリングを行い本人の意向に添うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は普段の状況を把握しており、食欲、顔色、様子を観察し、変化が見られた場合は、バイタルチェックを行い、管理者へ報告し職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースや体調に配慮しながら買い物、散歩の声掛けを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、利用者本人や家族の要望を踏まえ毎月カンファレンスを行っている。また、必要に応じ会議実施、アセスメント、モニタリングを定期的に職員全員で話し合いをし、介護計画を作成している。	家族の面会時に要望・意見を踏まえてモニタリングシートを活用し、職員全員で話し合って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意しケアや心身状況、日々の様子を記録している。職員間の情報共有を徹底し介護計画の評価、見直しを行っている。		
		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会や電話、手紙等で日々の暮らしの中で必要な情報を得て、グループホーム以外のサービスを受けている利用者がある。また、市の特別給付等の申請を行い、サービスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、町内会、民生委員、ボランティアへ働きかけや協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族と協力しかかりつけ医の通院介助や必要に応じて複数の医療機関の受診を支援している、かかりつけ医以外の受診時は随時報告・連絡・相談を行っている。	地区内からの利用者が多いこともあり、入所以前からの医院利用者が多い。通院は家族・従業員が対応している。通院結果については、その都度電話にて家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来て相談、バイタルチェック等を行い変化等を職員と共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と相談したり、また、家族とも情報を交換し、利用者の不安を仰ぐ事が無いように、関係者と早期退院に向けた働きかけをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を事業所で迎えられるように身体、精神の状況変化に応じて、ご家族と話し合いを積み重ねている、また会議等で職員全員が共有している。	医療連携体制加算をとっているため、事業所の方針を作成し、入居時に利用者と家族に説明し、同意を得ている。重度化した利用者へは毎日点滴をしてもらい、毎週訪れる家族と話し合いながら職員全員で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修実施し職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて、地域の協力を呼びかけている。避難訓練や消火器の使い方を定期的に訓練している。	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議でも避難訓練の反省、問題点等も話し合われている。地区の協力を呼びかけるなど努力は認められるも、地区防災消防組織はできていない。	避難方法・避難場所について検討する余地がみられる。又運営推進会議でも議題となった模擬訓練(発煙筒使用など)も検討する必要がある、防災組織の早期組織化も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の同意書もらい、関わりに注意した言葉かけや対応に気をつけている。また、記録等の個人情報の取り扱いや保管・管理には、注意をしている。	利用者の尊厳や誇りを損ねないよう穏やかにこやかに声かけをしている。個人情報の利用についての同意書も作製し、記録は鍵の掛かる書庫に保管され、個人情報の取り扱いについては注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の意思、希望に添うように言葉かけや場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の立場に立って一人ひとりの状態や思いに配慮して支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事等には、利用者の身だしなみに配慮して楽しんでもらえるように取り組んでいる。また、定期的に床屋、美容院にも通っている。また、散歩や外出の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一人ひとりの力を活かして、職員や利用者が準備、食事、片付けをしている。バランスのとれた食生活や季節の食材を取り入れて、食事を楽しんでもらえるように支援している。	農家出身の利用者が耕作したホーム菜園での収穫物(トマト・茄子・唐辛子等)を食材に使用したり、テーブルに花を飾り懐メロBGMを流すなど工夫をしている。テーブル拭きや配膳片付け等利用者の協力を得ながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の量をチェックして、体調や状態を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お茶でうがいをし、口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、習慣を活かして声掛けしながら、支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、食後・入浴前・就寝前にトイレ誘導を声掛けしている。夜間オムツ使用者1人、リハパン使用者6人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を利用し胃腸を刺激したり、運動を行って、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一人ひとりの希望に沿って、シャワー浴や部分浴を行っている。	利用者の希望・状況に合わせて、従業員が浴室1名、脱衣所1名対応している。重度の利用者についてはシャワー浴を行うなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、心地よい睡眠が取れるように、支援している、また、日中の個別の疲れ具合に合わせて、休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬記録を理解している。服薬の変更時は随時申し送り、確認をしている。内服記録を記入して、家族にも情報を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合せた役割を見つけて仕事を頼み、日々の楽しみを持っていただけるようにしている。また職員は利用者感謝のことは伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に行ったり、春の花見、秋の紅葉がりや冬の白鳥を見たり、外食をしたり、日常的に外出を支援している。	季節毎の行楽を実施している。日常的には、ホーム前の親水公園散歩やレストランでの食事会・食材の買い出し等外部との接触をもてるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり事業所で管理している。また、家族の同意の基、小額を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、電話などで外部との交流を支援している、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアーの壁に飾りつけを利用者と一緒に作って飾っている。また、写真を貼ったり居心地の良い空間作りをしている。また季節の花を飾って季節感を感じていただけるように配慮している。	利用者製作の書道・絵画・手芸品・行事の写真・ホームの菜園で耕作した花卉が飾ってあり季節感が感じられる。又インコを飼育したり、BGMを流したり和やかな環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りが無い為、気のあった者同士が過ごせるような居場所(ソファ、テーブル)作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者の使い慣れた馴染みのものを置いておくなど、その人らしい居室空間作りを行っている。	居室はトイレ・洗面所を備えているため使用可能空間は広くないが、家族の写真や手芸品が飾られていて、利用者各人が工夫し、自分にあった生活場としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じ、トイレの手摺りを使いやすい位置に取り付けたり、必要に応じて車椅子を利用する工夫をしている。		